

令和七年度

愛知工業大学名電中学校入学試験問題（一般）

国語

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 国語の試験時間は50分です。問題は①～④まであります。
3. 解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。試験開始の合図の後、解答用紙を取り出して、受験番号と氏名を記入してください。
4. 問題の内容についての質問には応じません。
5. 解答は句読点や記号等も一字として数えます。
6. 試験中に問題冊子の印刷がはっきりしなかったり、ページがぬけていたりした場合は、だまって手をあげて係の先生に知らせてください。
7. 質問や体の異常、筆記用具を落としたなどの場合は、だまって手をあげて係の先生に知らせてください。
8. 試験が終わったら、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ってください。



愛知工業大学名電中学校

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（出題の都合上、本文を一部改変しました。）

世の中には、アスリートや芸術家となることを運命づけられた人もいますよね。

体操の内村航平くんが小さい頃にトランポリンでトレーニングしている映像や、卓球の福原愛ちゃんが泣きながらお母さんとボールを打ち合っている映像を見ると、涙が出るほど感動します。

①、みんながオリンピックで活躍するアスリートや、ピアニストやバイオリンリストのような芸術家の道を歩むわけではありません。②子どもの頃から前半戦の人生が決定づけられている人は、全体の1%程度か、多くても10%に満たないでしょう。

③、子どもはみな大きな夢をもつべきだ、④その夢に向かってまっすぐに生きるのが良いと決めつける大人もいます。夢の実現のためには回り道は避けたほうがいいし、学校での地道な勉強は無駄ではないか、と。

本当にそうでしょうか？

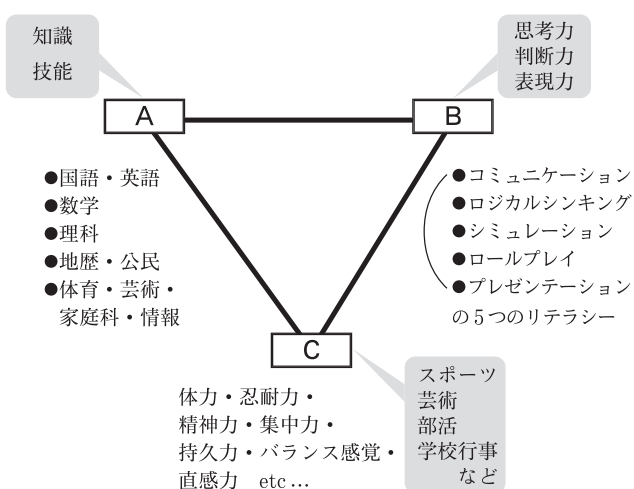
もし君が、小さい頃からアスリートや芸術系の訓練をせず、いま普通に学校に通っているようなら、僕はまず勉強することを勧めます。

君がすでに特定の夢やキャリアを強く意識しているケースを除けば、あとで選択の幅が広がるように、基礎学力を高めることは必須だからです。

⑤ 図表8を見てください。

小さい頃からアスリートや芸術家としての道を歩んでいるわけではない普通の人が、これからの時代に必要な「生きるチカラ」を三角形の図に表してみました。まず、土台になるのが基礎的人間力。家庭教育がベースですが、学校での人間関係や行事を通じての経験、あるいは部活でも育まれます。そのほか、旅やバイトなどさまざまな体験の積み重ねが、忍耐力や精神力、集中力、持久力など

図表8「生きるチカラ」の三角形①



を強化することになります。

そしてその上には、左側に情報処理力、右側に情報編集力を置きました。

情報処理力とは、狭い意味の「基礎学力」のことです。

計算の方法や漢字の書き方など、たくさん覚えることを覚え、それを思い出せるかどうか。記憶力の勝負になりますね。また、一見複雑な問題でも、それを読み解いて、なるべく早く、正確に「正解」を導けるかどうか。チャッチャと1人で、早く正確に処理できる力だから情報処理力と呼んでいます。

通常、これは学校の勉強や塾でのトレーニングで鍛えられます。中学でも、高校でも、大学でも、受験を経ることで情報処理力は飛躍的に上がりますが、試験が終わると途端に落ちてしまうという特性もあります。

一方、情報編集力は、正解がないか、正解が1つではない問題を解決する力です。広い意味の「学力」に含めてもいいのですが、正解を早く正確に当てる情報処理力と対比するために、右側に置きました。これについては、のちに詳しく解説します。

⑥ AI×ロボットに事務処理の仕事が取って代わられていくことはよく知られています。

では、人間には情報処理力が必要なくなるのでしょうか？

未来社会を生きる君たちに、基礎学力は不要になるのか？

よく言われるのは、知識はすべてネット上に蓄えられるから、もう覚える必要がないし、忘れてしまってもググれば（グーグルで検索すれば）いいということ。あるいは、Siriiのような音声認識ソフトに話しかければ何でも教えてくれる未来は近いから、記憶力を鍛えても意味がないという意見です。

たとえば、コロンブスがアメリカ大陸に到達したのは1492年のことですが、それを「イヨーツ（14）、国（92）が見えた！」なんて覚える必要はもうない、と。

たしかに、そうかもしれません。

ただし、コロンブスのアメリカ大陸到達が世界にどういう影響を及ぼし、ヨーロッパの国々の力関係がそれによってどう変化

したのか、あるいは、その影響のちに日本やアジアにどう波及したのかを調べようとするとき、世界史と日本史の基礎知識なしに探索することは不可能でしょう。ググればいいと言っても、ググるときのキーワードや、キーワードの結びつきのイメージは、基礎学力がなければ思いつかないでしょうから。

さらに、膨大な資料のなかから有用なものを探り当て、優先順位をつけて読み、自分の知識として吸収したり、他人に読ませるものとして記述しようとするときは、情報を早く正確に処理する情報処理力が欠かせない。

逆に情報処理力が低いと、図書館よりはるかに膨大なネット上の⑦情報の洪水に押し流されてしまいかねません。

目の前に問題が出されたとき、その問題を考える力の7割が「情報処理力」、あとの3割が「情報編集力」だと思ってもらっていいと思います。

のちのち、サラリーマンや公務員の仕事でも、この7・3の原則が生きてきます。

たいていの仕事では「処理」的な部分が7割以上で、経理でも、広報でも、営業でも、こうした処理仕事を早く正確にこなせるのが仕事のできる人の必要条件になります。経験したことのない人には意外かもしれませんが、一見、クリエイティブに見える広告や新規事業開発、あるいはテレビ局やネット放送局の仕事でも、じつは7割以上（下手をすると9割）が処理仕事だったりするものなんです。

あとの3割は、「正解」が1つではない課題に対してどんなアプローチができるのか、どれだけ納得できる解を導けるかの勝負です。これが仕事のできる人の十分条件。情報編集力側の力です。

仮に会社や役所のすべての処理仕事がAI×ロボットに置き換わったとしても、そのAI×ロボットに仕事を命じ、彼らをパートナーとして働く君たちは、相変わらず「考える」作業が欠かせないはずですよ。そうでないと仕事のイニシアチブ（自分が主人公で仕事を進める感覚）が持てません。

であれば、情報処理力が必要なくなることはないと思うのです。

別の例えをしてみましょう。

会社の機能として、ITを外部委託^{いたく}して内部にIT系人材を育てなかった場合、外部パワーをうまく使いこなせなくなることが知られています。デザインの領域でも、内部にデザインのわかる人材を育てずに高いお金でデザイナー^{やと}を雇^{やと}っても、一流の仕事はさせられない。これと同じです。

僕の知り合いには小学校に行かないで学んでいる子もありますが、その場合でもネットで学ぶだけでなく、大人とのひんばんなコミュニケーションによって基礎的な文章力を鍛えていることがうかがえます。メールの文章にそれが表れますから。

また、テレビを見ていてもわかると思うのですが、解説がうまいコメンテーターは、池上彰^{あきら}さんの例を挙げるまでもなく、メチャメチャ勉強しています。演出家のテリー伊藤^{いとう}さんも「僕はあんまりテレビ見ないんだけど、本はすごく読^よんでるの」と言っていました。

結局、情報量の勝負なんです。ディベートで意見を戦^{いくさ}わせる場合も、ビジネスの交渉^{こうしょう}の場面でも、客先でのプレゼンでも、小手先の見せ方ではなく、圧倒^{あつとう}的に知識のあるほうが勝つんです。より説得力があるからです。

意外かもしれませんが、デジタルで表現する時代になってもそれは変わりません。現にSNSやメールでの文章にその人が蓄積^{ちくせき}した情報量や教養が現れますし、人の意見をコピペばかりして考えていない人の文章には、浅はかさがにじむものです。

つまり、学ぶ場は必ずしも学校だけではなくなるけれど、**⑧**を鍛えることは相変わらず大事だということ。

わかりやすい言葉で言えば、やはり「学力」は高いほうがいい。

全国での自分の学力の位置を表す「偏差値^{へんさち}」という指標も、低いよりは高いほうがいいでしょう。ただし、これは図表8でいう左側の情報処理力に限られる指標ですから、偏差値^{いっぺんとう}一辺倒ではダメだという指摘^{しでき}は正しい（試験が右側の情報編集力も問うている場合には、偏差値は右側の一部も含む指標になります）。

土台となる基礎的人間力や右側の情報編集力を鍛えて、偏差値^{へんさち}を超^こえた「脱・偏差値^{だつ・へんさちち}」の力を持つことは大事だと思いますが、一部の教育評論家がよく言う「偏差値はいらない」という意見は、僕にはロマンチストの戯言^{たわごと}に聞こえるのです。その偏差値の高

い学校を出た評論家ほど、そういうことをよく述べる傾向がある（笑）。

でも、情報処理力（狭い意味の学力）については、これ以上の指標が見つからないし、長年使い込まれてきた指標ですから、これはこれで道具として生かしたらいいんです。

また、基礎知識がないと視点が低いままになりますから、目の前に障害物があると向こうまで見通せません。

僕はいつも生徒たちに実体験でシミュレーションをさせます。まず、椅子をどけて机の後ろに隠れるようにしたときには、前がどうなっているかも見えません。世の中は見えないままだし、この状態で何かを判断するのは危険です。君たちはまだこういう状態かもしれないね、と。

次に知識を積み上げて（学力を上げて）机から顔を出すようにすると前が見えるようになります。でも、まだ見通せるわけではない。前の子の後頭部しか見えないでしょう。さらに椅子を戻して座って見ると、もうちょっと視界が開けます。

もっと知識を積み上げて立ち上がったらどうでしょう。前に座っている友だちの頭の向こうに、教室全体を見通すことが可能になります。【ア】

視点が上がることで、視野が広がり、世の中が見えやすくなりました。これなら、総合的に判断することもできそうです。【イ】

だから、まだどっちの方向に自分の人生を振るか、どんな仕事をするかを決めていないのだったら、まず学力を上げておくしかない。それが、どんな職業に就き、どんなキャリアを積み上げていくかの決定を先送りする最低限の条件になります。【ウ】

特別な才能がないのだったら、勉強して情報処理力を鍛えておきましょう。【エ】

もちろん、人生や仕事の選択のように大きなことでなくても、生活のあらゆる局面で、課題を解決するためには多くの情報にアクセスして整理する必要があります。たとえばコーヒー豆を選ぶにも、アパートを探すにも。集めた情報のなかから優先順位の高いものを選び取るには情報処理力が高くなければできません。

「情報処理」プロセスが速く「時短」が図られれば、これから説明する「情報編集」のために時間をかけることができる。考えを深

め、より納得できる選択をする余裕ができるんですね。

これが鍵です。

会社の経営でも同じことが言えます。

社員がしている情報処理の仕事なるべくＩＴ化（ＡＩ×ロボット化）して、社内の人材の多くを情報編集側に寄せれば、その人材から知恵と技術（さらなるコストダウンやスピードアップ、新規事業のアイデアなど）が生み出されるから、商品やサービスの付加価値を高めることができるということ。

図表８の左から右へのシフトは、⑨ 儲かる会社の条件でもあるのです。

君たちが就職先を選ぶときには、これができる会社かどうかを見極めるといいと思います。

学校に通っている、いないにかかわらず、まず、自ら勉強することが情報処理力を鍛える早道になるという話をしました。

（藤原 和博『10年後、君に仕事はあるのか？』より）

【資料1】「野村総合研究所～2015年12月2日ニュースリリース～」より

日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能に

～601種の職業ごとに、コンピューター技術による代替確率を試算～

株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役会長兼社長：嶋本 正、以下「NR I」）は、英オックスフォード大学のマイケル A オズボーン 准教授およびカール・ベネディクト・フレイ博士との共同研究により、国内601種類の職業について、それぞれ人工知能やロボット等で代替される確率を試算しました。この結果、10～20年後に、日本の労働人口の約49%が就いている職業において、それらに代替することが可能との推計結果が得られています。

この共同研究はNR I 未来創発センターが「“2030年”から日本を考える、“今”から2030年の日本に備える。」をテーマに行っている研究活動のひとつです。人口減少に伴い、労働力の減少が予測される日本において、人工知能やロボット等を活用して労働力を補完した場合の社会的影響に関する研究をしています。

■日本の労働人口の約49%が、技術的には人工知能等で代替可能に

試算は、労働政策研究・研修機構が2012年に公表した「職務構造に関する研究」で分類している、日本国内の601の職業に関する定量分析データを用いて、オズボーン准教授が米国および英国を対象に実施した分析と同様の手法で行い、その結果をNR Iがまとめました。それによると、日本の労働人口の約49%が、技術的には人工知能やロボット等により代替できるようになる可能性が高いと推計されました（図1）。

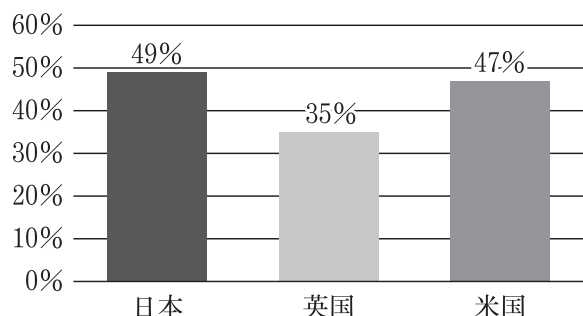


図1：人工知能やロボット等による代替可能性が高い労働人口の割合（日本、英国、米国の比較）

■創造性、協調性が必要な業務や、非定型な業務は、将来においても人が担う

この研究結果において、芸術、歴史学・考古学、哲学・神学など抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業、他者との協調や、他者の理解、説得、※ネゴシエーション、サービス志向性が求められる職業は、人工知能等での代替は難しい傾向があります。一方、必ずしも特別の知識・スキルが求められない職業に加え、データの分析や秩序的・体系的な操作が求められる職業については、人工知能等で代替できる可能性が高い傾向が確認できました。

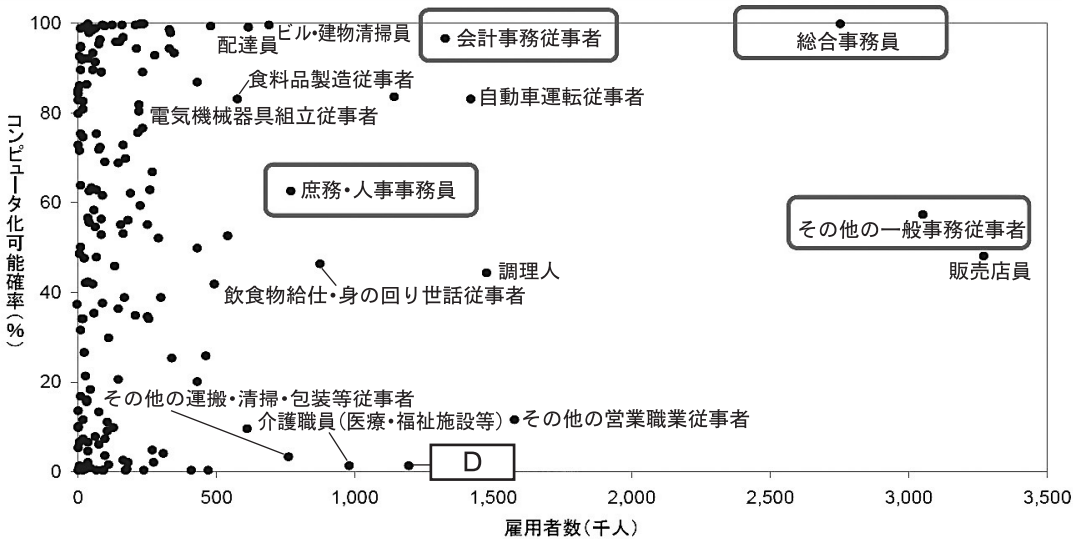
※ネゴシエーション……交渉や話し合い

【資料2】「野村総合研究所～A I と共存する未来～」より

職業の代替可能性

20世紀は「ロボットが製造業を自動化」し、21世紀は「AIがオフィスを自動化」する

職種ごとのコンピュータ化可能確率と雇用者数の分布



NRI Copyright(C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

出所) NRIと英オックスフォード大学マイケル A. オズボーン准教授等との共同研究(2015年)

問一
①・③・④にあてはまることばの組み合わせとして最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|----|---|------|---|------|---|------|
| ア. | ① | あるいは | ③ | しかし | ④ | それに |
| イ. | ① | ところが | ③ | そのうえ | ④ | それでも |
| ウ. | ① | そこで | ③ | つまり | ④ | だから |
| エ. | ① | でも | ③ | また | ④ | そして |

問二
線部②「子どもの頃から前半戦の人生が決定つけられている人は、全体の 1%程度か、多くても 10%に満たないでしょう」とありますが、筆者はそれ以外の人をどのような人と言っていますか。本文中から、三十六字で抜き出し、最初と最後の三字を書きなさい。

問三
線部⑤「図表 8」の A・B・C にあてはまることばの組み合わせとして最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|----|---|--------|---|--------|---|--------|
| ア. | A | 情報処理力 | B | 基礎的人間力 | C | 情報編集力 |
| イ. | A | 基礎的人間力 | B | 情報処理力 | C | 情報編集力 |
| ウ. | A | 情報編集力 | B | 情報処理力 | C | 基礎的人間力 |
| エ. | A | 情報処理力 | B | 情報編集力 | C | 基礎的人間力 |

問四 ―線部⑥「AI×ロボットに事務処理の仕事が取って代わられていくことはよく知られています」とありますが、そのことに関連する【資料1】【資料2】について答えなさい。

(1) 「AI×ロボット」が人間に変わって仕事を行うことの利点は何ですか。【資料1】から「～することが出来る」につながるように四十字でぬき出し、最初と最後の五字ずつを書きなさい。

(2) 【資料1】の内容をふまえて、【資料2】の空欄 **D** には、どの職業が入ると考えられますか。最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 警備員 イ. 看護師 ウ. 銀行窓口係 エ. 自動車組み立て工

問五 ―線部⑦「情報の洪水に押し流されてしまいかねません」と同じ表現技法が使われている文として、最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 空腹は料理の最高のスパイスだ。

イ. 聞こえるよ、小鳥の声が。

ウ. 花がこちらを見て、笑っている。

エ. まるで怪獣かいじゅうのような鳴き声だ。

問六 **⑧** に当てはまる言葉を本文中から、五字でぬき出して書きなさい。

問七 本文には次の一文がぬけています。この一文を入れるのに最もふさわしいところを、本文中の【ア】～【エ】から一つ選び、記号で答えなさい。

このように、知識を積み上げて視野を広くすることは、人生における選択の幅も広がります。

問八 — 線部⑨「儲かる会社の条件」とありますが、条件とは具体的にどのようなことですか。「情報処理の仕事をIT化し、」に続けて、五十文字以上六十文字以内で書きなさい。

問九 本文の特徴を説明した文として、最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 筆者と反対の立場の主張について、データを用いて、その矛盾をつくことで説得力を増している。
- イ. 筆者の主張について、たとえを多く用いて説明することで、分かりやすく述べている。
- ウ. 筆者の主張の根拠となるデータや論文などを紹介することで、説得力を増している。
- エ. 情報の専門家としての立場から、情報を扱うことの重要性を分かりやすく述べている。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（出題の都合上、本文を一部改変しました。）

① 中学生になった私は、学校では剣道部けんどうぶに入った。迷うことなく、入った。古いものに対する憧れあこがというより、一対一の人間が、刀を持って戦うということが好きだった。もともと徒党※を組んで、② ふやけた連帯感の上にあぐらをかき、表面上のいきがりだけで働いている人間たちが嫌いだった。

ふとしたことから、その仲間の一員に見られていることを感じると、ひどく後ろめたくなり、強引に抜け出した。

私は内気だし、（信じられない!?）、気の弱い人間であると思う。思ったことも満足にいけない時代が続き、いやなことでも、気の良さがわざわいして、否※い、とはいえなかった。徒党を組んでやってくる連中に対しては、身を縮めて暗がりにに逃げ込んだ。

その中に入り、みんながこどくを主張し、弱さを主張し、その馴れ合いなの上に自我意識を強く打ち出す者が教祖となるような仲間は、もっと私には無用だった。

弱いからこそ、一人で磨ける技、一人で戦える世界に入り込みたいと思っていた。なぐさめ合うのはごめんだった。

（中略）

中学の剣道部に入りたての頃は、これだけ昔から剣道に憧れていたのだから、きっとすぐに強くなれるのだろうと思っていた。ところが、どのような学校にも図抜けて強い者がいるもので、私のいた東田中学にも、③ 大根おおねという恐ろしく強いやつがいた。おまけに、彼は先輩ではなく、同学年だった。

中学一年生であるのに、身長は百七十センチあり、すでに二段の腕前うでまえだった。父親が剣道の道場を開いており、彼は五歳のときから竹刀を振るっていた。

勝てないどころか、十年も竹刀を握にぎっている者と、やりはじめて数か月の者では、まるで対比にならない。練習試合でも、ついに一年間は、彼から一本も取ることができなかった。

私はがっかりした。自分と同じ中学にいる者にすら勝てないのでは、東京都はおろか、杉並区すぎなみくの大会にすら出場することはむずかしいと思っていた。

大根は身長もあったが、身体つきもたくましかった。骨太でがっしりとしていた。しかも、顔つきが勇ましい。何十年も修行を

した野武士のような顔立ちで、眼光鋭く、睨まれると、大抵のものはすぐみ上がった。

私のいた中学は、暴れん坊ぞろいで有名であり、不良中学として通っていたのだが、大根だけには、やくざの息子たちも④、手を出すのは控えていた。

かなわない、と絶望しながらも、私はひそかに大根に勝てる日が来るのを狙っていたのかもしれない。そのせいか、⑤彼とはあまり親しく口をきいたことがない。稽古着に着換えて体育館に立ち、大根と向かい合い、一方的に打たれる毎日を過ごしていた。

彼の面打ちは高いところから右手のしぼりをきかせずに打ち込むので、ひどく痛かった。当ると脳天がしびれ、目の前が暗くなった。一年生の中には、失神してしまう者もいた。

先輩たちも、彼との練習には逃げ腰だった。勝てないのは仕方がないにしても、無様に打ちのめされる姿に耐えられなかったのだろう。⑥その意味では、大根はこどくだった。満足に彼の相手をできる者がいないのである。

みなが打ち合っているかたすみで、一人、防具をつけた彼が、ぼんやり突っ立っているのをよく見た。

私はかなわないと知りつつ、そんな大根によく申し合いをした。そしてさんざんに打ちさえられ、こんな化物みたいなやつとは二度とやるものかと思ひ、次の日にはまた挑みたくなってくるのだった。彼はまるで容赦をせず、メンから突きへと放ってくる。

この突きに泣かされた者は多く、私も何十回となく息がつまり、彼を鬼をみるような思いで眺めていた。

打ち負かした相手を仁王立ちになって見下ろし、ハッハ、と笑う顔が、はらわたがちぎれるほどに憎らしかった。こいつを負かさなければ、自分の出ていく場所がない、とは念じてみても、段の違ひはどうにも縮めることはできなかった。

私は、三年間のうちで、彼が試合に負けるのを、一度も見ることがない。学校で一番強かった彼は杉並区でも常に優勝していた。一年生でありながら、三年生を総ナメにした。決勝戦で、たまに彼から一本取る者があると、場内はどよめいた。

大根は都大会に出ても優勝していた。その後、全国大会に出たのかどうか、記憶はない。当時、中学生の全国大会があったかどうか、私は知らない。

考えてみれば、そんなすごいやつに、剣道をやりはじめたばかりの私が勝てるはずがなかった。練習試合で、彼がつい気を許したときに、胴を抜いたのが彼から一本を取ったはじめてのときで、二年生の中頃だった。大根は面の奥で⑦していた。それからは、めったに一本を取らせてもらえなかった。

三年になったある日、校庭でぼつんと立っている大根を見つけた。高校受験が近づいていて、剣道部に出る三年生の出席が悪くなっていた。大抵は三人だけだった。その内の一人である大根が、珍しく練習を休んだ日だった。

私はそばに行き、どうしたと訊いた。英語がなあ、と大根はいった。英語が不得手なので、目標の高校に入れないかもしれないというようなことを呟いた。別のところに行けばいいだろう、という、そこじゃなくちゃだめなんだ、決められているんだ、といった。

その高校は大学の付属高で、剣道で有名なところだった。親から決められた高校、大学のコースであり、そこに入って彼は剣道に励まなければならぬ運命にあった。大根は剣道で生きなければならないと定められていた。

私の胸の中に、熱いものが広がった。憂うつそうにしている大根の横顔にたまらなくさびしいものを感じると同時に、熱した流れが、気のふれたように、胸から身体を駆けめぐっていた。こいつには剣道がある、おれには、なにがあるのだろう、そう思った。三年生になって稽古に出てくるもう一人は、石井といった。彼は気の弱い、ちょっとくにくにやした泣きベソの多い男で、小学生のとき塾が一緒だった私は、いつでもメソメソしている彼から、剣道部に入るのだと聞かされたときは意外に思ったものだ。その石井は、二年、三年となるうちにみるみる強くなり、泣きベソのかわりに笑顔が似合う顔になっていた。卒業のころには、大根から三本のうち一本を取るほどに成長していた。

大根とも石井とも会わない高校生活を送った。私は杉並から調布の高校に移っていた。高校を卒業し、アメリカ行きを数週間後に控えたある日、私は阿佐ヶ谷の商店街で石井とぼつたり会った。彼は防具をかついでいた。大学の剣道部に入って三段になっていた。私も三段になっていたが、腕は彼の方が相当上だと思った。大根の消息を聞くと、石井は顔を曇らせ、知らないなあといった。私は一人ぼつんと校庭に立っていた大根の姿を思い出し、何もいえなくなっていた。

（高橋三千綱『あの時好きだと言えなかったオレ』より）

※徒党を組む…あることをするために仲間が団結する。

※否…同意しない。

※図抜けて…なみ外れて。

※容赦…ゆるすこと。

問一 ― 線部①「中学生になった私は、学校では剣道部に入った」とありますが、どのような思いで「入った」のですか。その思いを本文中から三十字でぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問二 ― 線部②「ふやけた連帯感の上にあぐらをかき、表面上のいきがりだけで働いている人間たち」とありますが、筆者がそれよりもっと嫌悪していたのはどのようなつながりの人たちですか。本文中から五十一字でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問三 ― 線部③「大根という恐ろしく強いやつがいた」とありますが、筆者は「大根」という存在に対してどのような感情をもちましたか。最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 高揚感 イ. 安心感 ウ. 緊張感 エ. 絶望感

問四 ④ には、「相手の力を認め、敬意をはらったり、その力にふさわしい対応をとる」という意味の次の語句が入ります。
にあてはまることばを体に関係する漢字一字で答えなさい。

◎ 置いて

問五 ― 線部⑤「彼とはあまり親しく口をきいたことがない」とありますが、それはなぜですか。最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 気の弱い人間である自分にとって、図抜けて強い大根はこわすぎる存在だったから。
イ. 力の差は歴然としているが、いつかは乗りこえなければならないライバルだと思っていたから。
ウ. 先輩たちが大根をさけているので、自分もそれにしたがわなければならないと判断したから。
エ. 人づきあいが悪い大根に対して、あえて自分から話しかける必要はないと思っていたから。

問六 ―線部⑥「その意味では、大根はこどくだった」とありますが、ここでの「こどく」とはどのようなことですか。本文中の語句を使って十五字以内で答えなさい。

問七

⑦にあてはまることばとして最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 苦笑 イ. 失笑 ウ. 爆笑 エ. 冷笑

問八 登場人物に関する説明としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 私はなれあいをやがり、憧れの剣道部に入部したのだが、そこで出会った大根はまさに憧れの体現者であった。
イ. 石井は気の弱さや泣きべそな性格で剣道部に入部したが、その結果見事に強く笑顔の似合う男になっていた。
ウ. 大根は剣道で生きることを経験から運命づけられているが、それに反発しながらも一生懸命生きようとしている。
エ. 石井は大学の剣道部に入り剣道が続けて三段の腕前になっていたが、大根は剣道が続いているか分からない。

問九 あなたがこれまでに「挑戦ちようせん」したことを、理由もふくめて六十字以上七十字以内で答えなさい。

3 次の①～⑤の——線部の漢字は、その読みをひらがなで書きなさい。また、⑥～⑩の——線部のカタカナは漢字に直し、必要であれば送りがなも書きなさい。

- ① 物語の著者について調べる。
- ② 有名な俳人が句集を出版した。
- ③ 今年の夏の暑さには閉口する。
- ④ 試合は後半に盛り上がってきた。
- ⑤ 昔は草のしるなどで布を染めた。
- ⑥ ナンミンのために募金する。
- ⑦ 自分の未熟さをツウカンする。
- ⑧ 登山者のアンピを気づかう。
- ⑨ 初日の出をオガム。
- ⑩ 電車にかさを置きワスレル。

4

次の問いにそれぞれ答えなさい。

問一

次の①～③の類義語を後の語群からそれぞれ一つずつ選び、漢字に直して答えなさい。

①安全

②機能

③手段

けいかく	ほうほう	ぶじ	きぼう
たんしょ	きけん	さよう	べんり

問二

次の①～③の対義語を後の語群からそれぞれ一つずつ選び、漢字に直して答えなさい。

①片道

②過去

③権利

みらい	こてい	ぎむ	らいれき
げんりょう	げんざい	おうふく	かがい

問三

次の①～④のことわざの（ ）にあてはまることばを、漢字で答えなさい。

①（ ）をたたいて渡る

②馬の耳に（ ）

③光陰（いん）のごとし

④百聞は（ ）にしかず

〈問題はこれで終わりです〉